

第70回 全国労働衛生週間(10/1~7)

戸沼社長は「全国労働衛生週間」に合わせて、函館新外環状道路函館市日吉東改良工事の朝礼(10/1)と函館江差自動車道木古内町釜谷改良工事の朝礼(10/2)で「全国労働衛生週間」の趣旨を伝え、働く一人ひとりが労働衛生活動の大切さを見直し、ストレス防止や体調管理、作業所での4S活動(整理・整頓・清掃・清潔)など「心とからだの健康」と「職場や現場の快適な環境づくり」の重要性を呼びかけました。



建設工事追い込み期災害防止運動(10/1~12/31)

道内建設業の9月末現在の死亡者は昨年同期の11人から12人と1人増え、死傷者数は6人減少し576人となっています。事故の型別では、死亡災害は「墜落・転落」が5件と最も多く、次に「崩壊・倒壊」「激突され」が各々2件、「転倒」「はさまれ・巻き込まれ」「飛来・落下」が各々1件となっています。建設業の労働災害は、例年追い込み期に当たる10月から12月に多発する傾向にあり、年間の3割がこの時期に発生しています。10月25日~31日は「建設安全週間」です。各事業場では自主的な労働災害防止活動の活性化を図るよう努めましょう。



ISO 外部審査



9月25日(水)と26日(木)の両日、マネジメントシステム評価センターの2名の審査員による外部審査が行われました。

品質審査では、函館新外環状道路函館市日吉東改良工事のボックスカーポート工の足場及び支保工計画が詳細に検討・計画されると共に佐藤土木部長が社内審査書で適切にレビュー・検証を行ったことを「充実点」と評価されました。また、品質審査で「改善の機会」の1件、安全審査で「改善の機会」1件、「観察事項」1件の評価を受けました。評価・助言された事柄を改善し日々の業務に活かして参りましょう。

品質審査では、函館新外環状道路函館市日吉東改良工事のボックスカーポート工の足場及び支保工計画が詳細に検討・計画されると共に佐藤土木部長が社内審査書で適切にレビュー・検証を行ったことを「充実点」と評価されました。また、品質審査で「改善の機会」の1件、安全審査で「改善の機会」1件、「観察事項」1件の評価を受けました。評価・助言された事柄を改善し日々の業務に活かして参りましょう。



安全と衛生



戸沼岩崎建設株式会社 発行

令和元年10月11日

清秋号

<http://www.tonuma.com/>

第236号



知内小学校6年生建設現場見学会 釜谷改良工事

9月3日(火)、知内小学校6年生26名が、函館江差自動車道木古内町釜谷改良工事の現場を見学しました。

現場代理人・監理技術者の坂尻所長は、建設業が日々の私たちの暮らしを支える大切な役割を担っていることを説明し「少しでも建設業のことを知ってもらい、建設業に興味を持ってください」と挨拶しました。

児童たちは、ICT技術を搭載したバックホーで自動制御による法面整形を見学したり、ブルドーザーやローラーにオペレーターとともに試乗しました。このほか、ドローンでの空撮や測量を体験。測量体験では自動追尾式測量を利用して描いた北海道の地上絵の上でドローンによる記念撮影を行いました。最後には工事の開始時期や道路排水などの質問も飛び出し、見学会を終えました。



函館高専 災害復旧用緊急仮設橋を開発

当社が実験の支援と施工アドバイスをを行っている函館高専の平沢秀之教授(橋梁工学)と研究室の学生の皆さんが開発を進める「災害復旧用緊急仮設橋」の折り畳み式木製ハトラス橋の架設実験が、9月18日(水)、同校グラウンドで行われました。

橋は全長6m、高さ1m、幅60cm。折り畳むと全長39cm、高さ1m、幅2.5mにコンパクト化でき、持ち運びしやすく400



kgの荷重に耐えられます。木材は道南スギを使用。10月5日(土)には、もう1つの木製ハトラス橋の架設実験を行いました。今後は、この仮設橋の実用化に向けた仕組みづくりを進めることが期待されます。

地域貢献活動

〈湯の川温泉街清掃ボランティア〉



煙草の吸い殻などを拾い集めました。

今年の湯の川温泉花火大会後の清掃活動は、花火大会の順延に伴い、8月19日(月)に行われました。当社からは10名が参加。国道278号線沿いや湯の川温泉街、松倉川周辺などの歩道や植え込みに落ちている空き缶やペットボトル、

〈湯倉神社例大祭〉

9月7日(土)~9日(月)の3日間に渡り湯倉神社例大祭が行われました。当社では例年、湯倉神社例大祭のお手伝いをさせていただいておりますが、今年も、グループ会社の興伸工業の皆さんと共に二日目の湯川地区周辺を練り歩く神輿行脚と最終日の夜神輿の担ぎ手の一翼を担いました。



〈檜槍川治山ダム(福島町)魚道清掃ボランティア〉



長年機能していない既設魚道の代わりに木製の簡易魚道を設置したほか、魚道に繋がる下段には、川床に小割石や砂利、土のうを手渡しで投入し、魚が通れるルートを確認しました。

